

1. 本園の教育目標

「よくあそぶ子」、「よくがんばる子」、「よくかみがえる子」という三本柱を保育の中心に置き、主体的に活動できる子を育てる

2. 令和2年度 重点的に取り組む目標・計画

- ・運動あそびの方法や展開を研究する（保育方法の研究）
- ・ヒヤリハットをもとに既存の危機管理マニュアルの改善（危機管理）
- ・長期的な見通しをもって保育内容を工夫（資質の向上）
- ・保護者への情報伝達について見直し（情報公開）

3. 令和2年度 教職員の達成及び取り組み状況

保育の計画性	子どもたちの今のすがたを尊重しながら、講師とも相談しながら活動の内容や展開を改築工事中のため、活動場所の配分などを含めて計画できた（保育方法の研究）（資質の向上）	B
保育のあり方 幼児への対応	幼児の気持ちを受け止め、その子どもに合ったペースで活動を進めることや、教職員全員がひとりひとりについて情報を共有することができた（保育方法の研究）（資質の向上）	B
資質や能力・適正	他の職員の指導方法を観察したり過去の資料により今の自分の取り組み方法を確認するなど、それぞれの職員が向上しようとするところが見られた（保育方法の研究）（資質の向上）	A
保護者への対応	毎月のクラス便りの他、個別での保護者懇談を行い、コロナ禍においても子どもの成長を共有した（情報公開）（保育方法の研究）	B
地域とのかかわり	町内清掃活動、地域へのお散歩、幼児画の掲示協力、未就園児親子活動などを通して、地域において幼児とのつながりを推進している（情報公開）	B
研修と研究	外部講師陣による園内研修で、工事中にもかかわらず園児の運動あそびを研究したり、表現活動についても教職員間での知識技術の共有を図り、資質の向上に繋がった 各種マニュアルも文章量を削減し理解しやすいように改善した（保育方法の研究）（資質の向上）（危機管理）	B

4. 令和2年度 総合的な評価結果

B	年間で重点的に取り組む内容について、予定されていた工事期間ではあったが教職員や外部講師陣との検討の結果、概ね適切に保育が行われた 保護者への情報提供について新たなツールを取り入れた
---	---

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 令和2年度 今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育方法の研究	子どもが自らの考えであそびの展開ができるように、保育方法を研究し一人ひとりの思いや考えを受け止められるように講師陣の意見を活用しながら研究する。
危機管理	既存の危機管理マニュアルを教職員がより理解できるように、文章量を少なくし、画像を多く取り入れるなど具体的に安心安全なマニュアルとなるように内容を工夫する。
資質の向上	子ども一人ひとりの成長に合わせて、長期的な見通しをもって保育内容を工夫するとともに自己研鑽に励む。
情報公開	ライン公式アカウントの使い方について検討する。

6. 令和2年度 学校関係者評価

先生方が子ども一人ひとりについてよく把握していただき、クラスの枠を超えて見守ってくれるのは心強い
コロナ禍に於いても、大きな行事も感染対策を工夫して実施していただいたことで、子どもたちの成長の姿や友だちとの関りを保護者にも見る機会を得られた。
毎日の感染対策を徹底していただき、新型コロナウイルス陽性者が出ていないことも、先生たちの尽力によるものと大きく評価する。
そういった姿を拝見することで、保護者も負担は大きいものの不満なく協力することが出来ていると思われる。
外部講師の先生方とも協力して、子どもたちが少しでも楽しめるように配慮して計画を立て直してくれているのが有り難い。
お父さんの会“DADDY-A”が主催する活動が制限され、新しい活動が課題となっている。

7. 令和2年度 財務状況

公認会計士による監査において、財務状況が適正であることについて評価を受けております。
--